

英語	日本語
CPR by Rescuers Wearing PPE	個人防護具を着用した CPR
Author: Berg KM, et al. BLS task force	
<p>PICOST (Population, Intervention, Comparator, Outcome, Study Designs and Timeframe)</p> <p>Population: Adults and children in any setting (in hospital or out of hospital) with cardiac arrest (including simulated cardiac arrest)</p> <p>Intervention: CPR by rescuers wearing PPE</p> <p>Comparator: CPR by rescuers not wearing PPE</p> <p>Outcome: Critical: Survival to discharge and ROSC</p> <p>Important: CPR quality, time to the procedure of interest, and rescuer's fatigue and neuropsychiatric performance such as concentration and dexterity</p> <p>Study designs: RCTs and nonrandomized studies (non-RCTs, interrupted time series, controlled before-and-after studies, cohort studies) were eligible for inclusion. Unpublished studies (eg, conference abstracts, trial protocols) were excluded.</p> <p>Time frame: All years and all languages were included as long as there was an English abstract. The literature search was updated to May 23, 2022.</p>	<p>P: あらゆる環境(病院内または病院外)の成人および小児の心停止(シミュレーションを含む)</p> <p>I: 個人防護具(PPE)を着用した CPR</p> <p>C: PPE を着用しない CPR</p> <p>O: 重大なアウトカム: 生存退院と ROSC</p> <p>重要なアウトカム: CPR の質、CPR までの時間、救助者の疲労、集中力や器用さなどの精神神経学的パフォーマンス</p> <p>S: RCT と非無作為化研究(非 RCT、分割時系列解析、前後比較研究、コホート研究)を対象とした。論文化されていない研究(学会抄録、臨床試験のプロトコールなど)は除外した。</p> <p>T: 英文抄録がある、全ての年の、あらゆる言語での研究を対象とした。文献検索は 2022 年 5 月 23 日まで</p>
<p>Treatment recommendations</p> <p>We recommend monitoring for fatigue in all rescuers performing CPR (good practice statement).</p> <p>We suggest increased vigilance for fatigue in rescuers wearing PPE (weak recommendation, very low-certainty evidence).</p>	<p>推奨と提案</p> <p>CPR を行うすべての救助者の疲労をモニタリングすることを推奨する(優れた医療慣行に関する記述)。</p> <p>PPE を着用している救助者の疲労に対して、細心の注意を払うことを提案する(弱い推奨、エビデンスの確実性: 非常に低い)</p>

### 1. JRC の見解と解説

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によるパンデミックの影響で PPE を装着して CPR を行うことが増えたことをうけ、このトピックは CoSTR2023 で初めて検討された。
- 2 件の観察研究では、PPE を装着した群で自己申告による疲労が増加したことが報告された。
- シミュレーション研究の RCT および観察研究のメタアナリシスでは、PPE を装着している救助者では、装着していない救助者と比較して、主要な評価指標である CPR の質に差は認められなかった。
- PPE ありとなしを比較した臨床研究は 1 件のみあり、救急外来において従来の PPE (サージカルマスク、手袋、ガウン) と強化 PPE (完全なボディスーツ、ブーツ、N95 マスク、動力式空気清浄装置) を前後比較したが、患者の 30 日後生存率、ROSC 率に差はなかった。

### 2. わが国への適用

- 優れた医療慣行として、CPR を行うすべての救助者の疲労をモニタリングすることを推奨する予定である。
- PPE を着用している救助者の疲労に対して最新の注意を払うことを提案する予定である。

### 3. 担当メンバー

作業部会員 (五十音順)

喜熨斗智也、深野賢太郎

共同座長 (五十音順)

野田英一郎、若松弘也

担当編集委員 (五十音順)

西山知佳、乗井達守

顧問

畑中哲生

編集委員長

坂本哲也